

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月10日

【四半期会計期間】 第139期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 オーベクス株式会社

【英訳名】 AuBEX CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 栗原 則 義

【本店の所在の場所】 東京都墨田区両国四丁目31番11号

【電話番号】 03(6701)3200(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理部長 塚越 孝 弘

【最寄りの連絡場所】 東京都墨田区両国四丁目31番11号

【電話番号】 03(6701)3200(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理部長 塚越 孝 弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	会計期間	第138期	第139期	第138期
		第2四半期 連結累計期間	第2四半期 連結累計期間	第138期
		自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高	(千円)	2,658,520	2,622,286	5,315,220
経常利益	(千円)	366,393	293,902	639,434
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	(千円)	269,839	217,535	469,191
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	296,131	241,475	487,402
純資産額	(千円)	5,642,159	6,018,540	5,833,431
総資産額	(千円)	9,440,810	9,540,877	9,328,014
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	97.39	78.21	169.17
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	59.8	63.1	62.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	190,164	601,298	338,314
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	44,026	99,225	183,548
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	113,700	138,841	205,903
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	2,476,169	2,758,862	2,388,065

回次	会計期間	第138期	第139期
		第2四半期 連結会計期間	第2四半期 連結会計期間
		自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	39.08	38.64

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている企業会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たりましては、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績や現状を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 (重要な会計上の見積り)」についての重要な変更はありません。

(2) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績

	第138期 第2四半期 連結累計期間	第139期 第2四半期 連結累計期間	増減	増減率
売上高	2,658,520千円	2,622,286千円	36,233千円	1.4%
営業利益	341,308千円	269,867千円	71,441千円	20.9%
営業利益率	12.8%	10.3%	2.5ポイント	
経常利益	366,393千円	293,902千円	72,490千円	19.8%
経常利益率	13.8%	11.2%	2.6ポイント	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	269,839千円	217,535千円	52,304千円	19.4%

当第2四半期連結累計期間（2023年4月1日～2023年9月30日）におけるわが国経済は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更された結果、経済活動の正常化により個人消費や設備投資の増加傾向が顕著に表れたものの、エネルギー・関連価格の高騰や円安の進行に伴う物価上昇などにより、経営環境の先行きは不透明な状況が続いております。

このような事業環境の中、当社グループは、基本方針を「新市場（スタンダード市場）において持続的成長と企業価値向上を具現化する」とする第8次中期経営計画（オ-ベクスビジョン2024）の目標達成に向けてスタートし、既存事業の強化による事業拡大、持続的成長に向けた設備投資、グループ技術を結集した新製品の開発および新分野への展開などの基本戦略の実行に取り組んでおります。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,622百万円（前年同四半期比1.4%減）、営業利益は269百万円（前年同四半期比20.9%減）、経常利益は293百万円（前年同四半期比19.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は217百万円（前年同四半期比19.4%減）となりました。営業利益率は10.3%となり、前年同四半期比で2.5ポイント減少しました。経常利益率は11.2%となり、前年同四半期比で2.6ポイント減少しました。

セグメント別の状況は、次のとおりであります。

(テクノ製品事業)

	第138期 第2四半期 連結累計期間	第139期 第2四半期 連結累計期間	増減	増減率
外部顧客への売上高	1,965,087千円	1,902,215千円	62,872千円	3.2%
セグメント利益	451,142千円	381,570千円	69,571千円	15.4%
セグメント利益率	23.0%	20.1%	2.9ポイント	

テクノ製品事業は、中国を含むアジア地域の売上は堅調に推移しましたが、ヨーロッパおよび国内の売上は低調に推移しました。その結果、売上高は1,902百万円（前年同四半期比3.2%減）、セグメント利益は381百万円（前年同四半期比15.4%減）となりました。セグメント利益率は20.1%となり、前年同四半期比で2.9ポイント減少しました。

(メディカル製品事業)

	第138期 第2四半期 連結累計期間	第139期 第2四半期 連結累計期間	増減	増減率
外部顧客への売上高	693,087千円	720,071千円	26,984千円	3.9%
セグメント利益	44,350千円	48,427千円	4,077千円	9.2%
セグメント利益率	6.4%	6.7%	+0.3ポイント	

メディカル製品事業は、コロナ禍の影響が解消したことにより積極的なプロモーション活動および販売拡大に注力しました。その結果、売上高は720百万円（前年同四半期比3.9%増）、セグメント利益は48百万円（前年同四半期比9.2%増）となりました。セグメント利益率は6.7%となり、前年同四半期比で0.3ポイント増加しました。

財政状態

	前連結会計年度	当第2四半期 連結会計期間	増減
資産	9,328,014千円	9,540,877千円	212,863千円
負債	3,494,583千円	3,522,337千円	27,754千円
純資産	5,833,431千円	6,018,540千円	185,109千円
自己資本比率	62.5%	63.1%	+0.6ポイント

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ212百万円増加し、9,540百万円となりました。これは主に、仕掛品69百万円、その他流動資産60百万円の減少があるものの、現金及び預金382百万円が増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ27百万円増加し、3,522百万円となりました。これは主に、長期借入金67百万円の減少があるものの、未払法人税等48百万円、支払手形及び買掛金44百万円が増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ185百万円増加し、6,018百万円となりました。これは主に、利益剰余金155百万円が増加したことによるものであります。

自己資本比率は63.1%となり、前連結会計年度末に比べ0.6ポイント増加しました。

キャッシュ・フローの状況並びに資本の財源及び資金の流動性についての分析

	前第2四半期 連結会計期間	当第2四半期 連結会計期間	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	190,164千円	601,298千円	411,133千円
投資活動によるキャッシュフロー	44,026千円	99,225千円	55,199千円
財務活動によるキャッシュフロー	113,700千円	138,841千円	25,141千円
換算差額	8,504千円	7,566千円	937千円
現金及び現金同等物の期首残高	2,435,227千円	2,388,065千円	47,162千円
現金及び現金同等物の期末残高	2,476,169千円	2,758,862千円	282,692千円

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ370百万円増加し、2,758百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、601百万円の資金の増加（前年同四半期 190百万円の資金の増加）となりました。これは主に、増加要因として税金等調整前四半期純利益293百万円、減価償却費129百万円、未払消費税等の増加額79百万円、減少要因として法人税等の支払額42百万円などがあったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、99百万円の資金の減少（前年同四半期 44百万円の資金の減少）となりました。これは主に、減少要因として有形固定資産の取得による支出96百万円などがあったことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、138百万円の資金の減少（前年同四半期 113百万円の資金の減少）となりました。これは主に、減少要因として長期借入金の返済による支出267百万円、配当金の支払額61百万円、増加要因として長期借入れによる収入200百万円などがあったことによるものであります。

当社グループの主要な資金需要は、製品製造のための原材料費、製造費用、販売費及び一般管理費等の営業費用並びに当社グループの設備投資等に係る投資であります。

これらの資金需要につきましては、営業活動によるキャッシュ・フロー及び自己資金のほか、金融機関からの借入による資金調達にて対応していくこととしております。

また、グループ内での資金管理は当社が一元管理を行うことで、資金効率の向上を図っております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費の総額は54百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,092,623	3,092,623	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株でありま す。
計	3,092,623	3,092,623		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日		3,092,623		1,939,834		484,958

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
昭和化学工業(株)	東京都港区赤坂 2 - 14 - 32	471	15.30
(株)麻生	福岡県飯塚市芳雄町 7 - 18	445	14.46
若築建設(株)	東京都目黒区下目黒 2 - 23 - 18	423	13.74
(株)日本カストディ銀行 (信託E口)	東京都中央区晴海 1 - 8 - 12	294	9.56
オーベクス取引先持株会	東京都墨田区両国 4 - 31 - 11	106	3.44
(株)みずほ銀行 (常任代理人 (株)日本カストディ 銀行)	東京都千代田区大手町 1 - 5 - 5 (東京都中央区晴海 1 - 8 - 12)	95	3.09
大田 昭彦	東京都立川市	66	2.14
オーベクス従業員持株会	東京都墨田区両国 4 - 31 - 11	56	1.84
三井住友信託銀行(株) (常任代理人 (株)日本カストディ 銀行)	東京都千代田区丸の内 1 - 4 - 1 (東京都中央区晴海 1 - 8 - 12)	56	1.83
栗原 則義	千葉県八千代市	51	1.67
計	-	2,067	67.11

(注) 株式会社日本カストディ銀行(信託E口)は、株式給付信託(J-ESOP)及び株式給付信託(BBT)における当社株式の再信託先です。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 12,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,061,700	30,617	
単元未満株式	普通株式 18,323		
発行済株式総数	3,092,623		
総株主の議決権		30,617	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式のうち、294,400株につきましては、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)(東京都中央区晴海1丁目8番12号)へ拠出しております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式のうち、60株につきましては、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)(東京都中央区晴海1丁目8番12号)へ拠出しております。

3 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式66株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) オーベクス株式会社	東京都墨田区両国 4 - 31 - 11	12,600		12,600	0.41
計		12,600		12,600	0.41

(注) 当社は、株式給付信託(J-ESOP)及び株式給付信託(BBT)の導入に伴い、2012年3月12日付けで株式給付信託(J-ESOP)の自己株式262,000株及び2016年8月25日付けで株式給付信託(BBT)の自己株式68,160株を株式会社日本カストディ銀行(信託E口)(東京都中央区晴海1丁目8番12号)へ拠出しております。なお、自己株式数については、2023年9月30日現在において信託E口が所有する株式給付信託(J-ESOP)の当社株式233,100株及び株式給付信託(BBT)の当社株式61,360株を自己株式数に含めておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人グラヴィタスによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,476,067	2,858,866
受取手形及び売掛金	1,311,668	1,285,347
商品及び製品	153,752	163,843
仕掛品	1,346,253	1,276,386
原材料及び貯蔵品	475,317	476,152
その他	163,883	103,616
貸倒引当金	1,667	695
流動資産合計	5,925,277	6,163,517
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,943,985	2,964,411
減価償却累計額	1,879,628	1,932,931
建物及び構築物(純額)	1,064,357	1,031,480
機械装置及び運搬具	3,235,796	3,287,314
減価償却累計額	2,811,671	2,880,175
機械装置及び運搬具(純額)	424,125	407,138
土地	1,457,442	1,457,525
リース資産	186,076	187,378
減価償却累計額	132,309	141,618
リース資産(純額)	53,766	45,759
建設仮勘定	64,110	91,225
その他	550,852	567,273
減価償却累計額	493,823	510,633
その他(純額)	57,028	56,639
有形固定資産合計	3,120,831	3,089,769
無形固定資産		
特許権	4,622	4,945
リース資産	738	71
その他	19,345	17,979
無形固定資産合計	24,706	22,997
投資その他の資産		
投資有価証券	113,663	115,612
出資金	130	130
繰延税金資産	72,793	87,308
その他	76,606	67,536
貸倒引当金	5,994	5,993
投資その他の資産合計	257,199	264,593
固定資産合計	3,402,737	3,377,360
資産合計	9,328,014	9,540,877

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	321,844	366,139
1年内返済予定の長期借入金	639,778	805,066
リース債務	17,355	11,907
未払法人税等	40,602	89,237
賞与引当金	96,951	84,690
その他	266,981	296,016
流動負債合計	1,383,514	1,653,057
固定負債		
長期借入金	1,517,112	1,284,464
リース債務	23,244	18,966
再評価に係る繰延税金負債	23,042	23,042
株式給付引当金	148,137	154,486
退職給付に係る負債	399,016	387,805
その他	515	515
固定負債合計	2,111,068	1,869,279
負債合計	3,494,583	3,522,337
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,939,834	1,939,834
資本剰余金	518,489	518,489
利益剰余金	3,435,330	3,591,266
自己株式	206,244	201,011
株主資本合計	5,687,410	5,848,579
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	51,913	53,067
土地再評価差額金	27,151	27,151
為替換算調整勘定	66,955	89,742
その他の包括利益累計額合計	146,020	169,961
純資産合計	5,833,431	6,018,540
負債純資産合計	9,328,014	9,540,877

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	2,658,520	2,622,286
売上原価	1,682,148	1,715,247
売上総利益	976,371	907,039
販売費及び一般管理費	635,062	637,171
営業利益	341,308	269,867
営業外収益		
受取利息	284	239
受取配当金	2,217	2,243
為替差益	28,973	23,276
その他	3,178	6,991
営業外収益合計	34,653	32,752
営業外費用		
支払利息	6,812	8,204
その他	2,756	512
営業外費用合計	9,569	8,717
経常利益	366,393	293,902
特別利益		
固定資産売却益	61,968	-
特別利益合計	61,968	-
特別損失		
固定資産売却損	22,868	0
固定資産除却損	47	382
特別損失合計	22,915	382
税金等調整前四半期純利益	405,445	293,520
法人税、住民税及び事業税	84,540	91,009
法人税等調整額	51,065	15,024
法人税等合計	135,606	75,985
四半期純利益	269,839	217,535
親会社株主に帰属する四半期純利益	269,839	217,535

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	269,839	217,535
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,172	1,153
為替換算調整勘定	21,119	22,786
その他の包括利益合計	26,291	23,940
四半期包括利益	296,131	241,475
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	296,131	241,475

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	405,445	293,520
減価償却費	143,717	129,973
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	9,459	11,211
株式給付引当金の増減額（ は減少）	11,150	11,581
賞与引当金の増減額（ は減少）	33,448	12,446
貸倒引当金の増減額（ は減少）	202	971
受取利息及び受取配当金	2,501	2,483
支払利息	6,812	8,204
為替差損益（ は益）	3,358	0
有形固定資産除却損	47	382
有形固定資産売却損益（ は益）	39,100	0
売上債権の増減額（ は増加）	111,214	51,744
棚卸資産の増減額（ は増加）	212,773	67,851
仕入債務の増減額（ は減少）	15,665	33,383
未払消費税等の増減額（ は減少）	36,677	79,231
その他の流動資産の増減額（ は増加）	757	3,566
その他の流動負債の増減額（ は減少）	44,813	8,190
その他の固定資産の増減額（ は増加）	6,013	3,817
その他の固定負債の増減額（ は減少）	0	-
小計	348,486	649,568
利息及び配当金の受取額	2,501	2,483
利息の支払額	6,694	7,917
法人税等の支払額	154,128	42,836
営業活動によるキャッシュ・フロー	190,164	601,298
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	12,001	12,001
有形固定資産の取得による支出	143,674	96,511
有形固定資産の売却による収入	106,817	103
無形固定資産の取得による支出	1,967	1,036
投資有価証券の取得による支出	652	686
保険積立金の積立による支出	1,518	1,232
保険積立金の解約による収入	7,983	10,179
投資その他の資産の増減額（ は増加）	985	1,958
投資活動によるキャッシュ・フロー	44,026	99,225
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	200,000	200,000
長期借入金の返済による支出	222,258	267,360
配当金の支払額	76,732	61,590
リース債務の返済による支出	14,709	9,891
財務活動によるキャッシュ・フロー	113,700	138,841
現金及び現金同等物に係る換算差額	8,504	7,566
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	40,941	370,797
現金及び現金同等物の期首残高	2,435,227	2,388,065
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,476,169	2,758,862

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間
 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(表示方法の変更)

当社は、従来、不動産に係る収入及び費用については「売上高」及び「売上原価」として計上しておりましたが、前連結会計年度に賃貸不動産の売却を行なった結果、関係会社への賃貸不動産のみになり連結決算ではその売上高が全て消去されることから、第1四半期連結会計期間から当社個別決算における「売上高」及び「売上原価」を「営業外収益」及び「営業外費用」に変更しております。なお、この変更に伴う四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
受取手形	千円	18,921千円
支払手形	千円	98,805千円
その他(設備関係支払手形)	千円	43,340千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
発送費	71,435千円	49,815千円
給与手当及び賞与	240,278千円	251,833千円
賞与引当金繰入額	31,315千円	35,473千円
退職給付費用	8,577千円	9,885千円
株式給付費用	10,118千円	9,470千円
福利厚生費	41,295千円	41,565千円
研究開発費	52,381千円	54,756千円
賃借料	18,014千円	18,012千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月30日)
現金及び預金	2,552,172千円	2,858,866千円
預入期間が 3 か月を超える定期預金	76,002千円	100,004千円
現金及び現金同等物	2,476,169千円	2,758,862千円

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間(自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年 6 月24日 定時株主総会	普通株式	76,998	25.00	2022年 3 月31日	2022年 6 月27日	利益剰余金

(注) 2022年 6 月24日定時株主総会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金7,814千円が含まれております。

2. 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第 2 四半期連結累計期間(自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年 6 月23日 定時株主総会	普通株式	61,599	20.00	2023年 3 月31日	2023年 6 月26日	利益剰余金

(注) 2023年 6 月23日定時株主総会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金6,065千円が含まれております。

2. 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	テクノ 製品事業	メディカル 製品事業	計	
売上高				
顧客との契約から生じる収益	1,965,087	693,087	2,658,175	2,658,175
外部顧客への売上高	1,965,087	693,087	2,658,175	2,658,175
セグメント間の内部売上高 又は振替高		2,437	2,437	2,437
計	1,965,087	695,524	2,660,612	2,660,612
セグメント利益	434,640	44,350	478,990	478,990

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	478,990
全社費用(注)	137,681
四半期連結損益計算書の営業利益	341,308

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	テクノ 製品事業	メディカル 製品事業	計	
売上高				
顧客との契約から生じる収益	1,902,215	720,071	2,622,286	2,622,286
外部顧客への売上高	1,902,215	720,071	2,622,286	2,622,286
セグメント間の内部売上高 又は振替高		645	645	645
計	1,902,215	720,717	2,622,932	2,622,932
セグメント利益	381,570	48,427	429,998	429,998

(注) 追加情報に記載の通り、従来、「その他」の区分で表示しておりました不動産賃貸事業に係る収入及び費用については、表示方法を変更しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	429,998
全社費用(注)	160,130
四半期連結損益計算書の営業利益	269,867

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項
(表示方法の変更)

当社は、従来、不動産に係る収入及び費用については「売上高」及び「売上原価」として計上しておりましたが、前連結会計年度に賃貸不動産の売却を行なった結果、関係会社への賃貸不動産のみになり連結決算ではその売上高が全て消去されることから、第1四半期連結会計期間から当社個別決算における「売上高」及び「売上原価」を「営業外収益」及び「営業外費用」に変更しており、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報につきましては、変更後の数値を用いて作成したものを記載しております。

なお、この変更に伴うセグメント情報に与える影響は軽微であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益	97円39銭	78円21銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	269,839	217,535
普通株主に帰属しない金額 (千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (千円)	269,839	217,535
普通株式の期中平均株式数 (株)	2,770,811	2,781,568

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
1株当たり四半期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前第2四半期連結累計期間309,145株、当第2四半期連結累計期間298,387株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月8日

オーベクス株式会社
取締役会 御中

監査法人グラヴィタス

京都府京都市

指定社員
業務執行社員 公認会計士 藤 本 良 治

指定社員
業務執行社員 公認会計士 飯 田 一 紀

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオーベクス株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オーベクス株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。